経済学がもっと面白くなる〈情報＆メッセージ!〉

北海学園大学 経済学部報
【エコン】
2012.冬・春号

# econ.

No.25

日本学生経済ゼミナール大会開催！

特集 インゼミに見る「研究」と「交流」 ●INTERVIEW ●全国ゼミ大会ABC

●interview OB訪問 ── 働きマン⑧ 北海道奈井江商業高等学校校長 七戸茂治さん

news1 第3回基礎ゼミプレゼン大会／労働経済論シンポジウム ●研究室の窓から 松原陽子准教授

news2 地域研修報告会／市民公開講座―世界の言語と文化のモザイクを眺める―韓国・朝鮮文化

팥빙수
パッピンス(氷あずき)

일방 통행
一方通行

버스정류소 금연은 남을 위한 배려입니다
バス停留所での禁煙は、人の為の配慮です

소화전
消火栓

시력표
視力表

「コンジュイ パッチュイ」
李朝時代の古典小説

사상 서부 터미널
沙上(駅)西部ターミナル

서대전네거리
西大田四街(地下鉄駅入口)

# 【에콘】

「에콘」

「econ.」のハングル表記。写真はNews2「世界の言語と文化のモザイクを眺める―韓国・朝鮮文化」(市民公開講座、関連記事は8ページ) 担当の辻弘範 准教授より。

眞露(焼酎「ジンロ」)

외출중
外出中

우체통
郵便ポスト

전주비빔밥
全州ビビンバ

떡볶이
トッポッキ

회전초밥 무조건 한접시 1,000원
回転寿司　何でも一皿1,000ウォン

아동안전 지킴이 집
子どもの安全を守る家

버스승차장
バス乗り場

발조심
足元注意

## 日本学生経済ゼミナール大会開催！

# 特集 インゼミに見る「研究」と「

2011年12月17日、18日の二日間にわたり、本学学生組織の経済学部ゼミナール協議会が加盟する日本学生経済ゼミナール（通称インゼミ）の全国大会、第58回日本学生経済ゼミナール北海学園大学大会が北海道で初めて本学で開催されました。全国から経済学・経営学・商学を学ぶ1,500人近い学生が参加し、「研究の促進」「他大学生との交流」を目的に、研究成果を発表するプレゼン部門や、74の討論部門分科会で活発な討論が繰り広げられました。

### *INTERVIEW 1*

今回の大会実行委員長で経済学部経済学科３年生の福嶋夏美さんに、大会を振り返った感想をうかがいました。

日本学生経済ゼミナール大会実行委員長

**福嶋 夏美** さん

●経済学部ゼミナール協議会

**●全国から1,458人もの大学生が集まった大会の実行委員長を務め上げた福嶋さんの率直な感想は―**

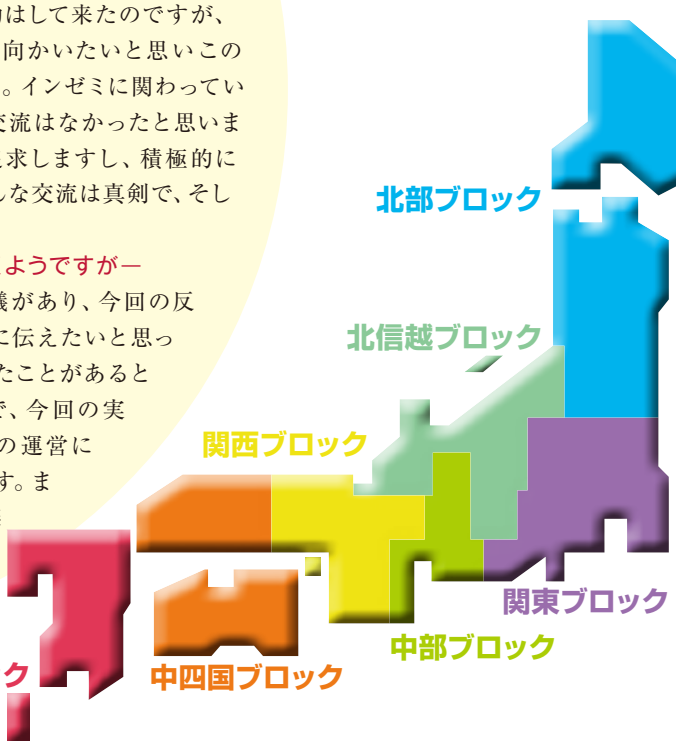
――終わった後、「本当に終わったのかな。もっと何か参加者へのフィードバックが出来たんじゃないか。新しいことへの挑戦ができなかったのか。何かもうちょっと出来たんじゃないか」と、少し悔しい気持ちがあります。

**●経済学部ゼミナール協議会の先輩から刺激や影響を受けてここまで活動を続けて来られたそうですが、実際の経過は―**

――経済学部ゼミナール協議会だけで実現できるものではありませんでした。全学に呼びかけて他学部の学生たちにも協力してもらいながら、２年近い準備期間をかけて開催にこぎ着けました。大会全体のテーマづくりから始まり、大学との様々な協議、参加大学への呼びかけと集約、実際的な運営の仕組みづくりとその実行など多くの苦労がありましたが、北海道で初めてという、私たちの代（学年）でしかできないことを体験できたことはとても有意義でした。１年生の頃からプレゼン大会への参加などいろいろな活動はして来たのですが、何かもっと大きなことに向かいたいと思いこの全国大会に関わりました。インゼミに関わっていなかったら他大学との交流はなかったと思います。本州の学生は深く追求しますし、積極的に意見を求めてきます。そんな交流は真剣で、そして楽しいものでした。

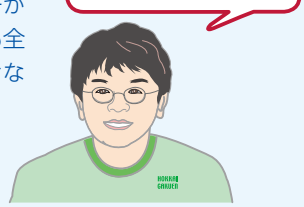
**●まだまだ活動はつづくようですが―**

―― ２月に引き継ぎ会議があり、今回の反省点を来年度の開催校に伝えたいと思っています。まだやり残したことがあるという思いもありますので、今回の実行委員たちで次回大会の運営に参加しようと話しています。まだまだ真剣に、そして楽しみたいと思います。




## 全国ゼミ大会ABC

補講があるため、大学に来ていた経済学部１年生の市田君。たまたま経済学部掲示板に貼ってあった全国ゼミ大会のポスターが目に入りました。そんなのがあったのかと思いつつ、そもそも全国ゼミ大会とは何か、通りすがりで詳しそうな野比先生にいきなり質問してみました。




**市田君（以下、市田）** 先生！このポスターにある全国ゼミ大会とはいったい何ですか？

**野比先生（以下、野比）** おぉっ！急にびっくりした…。全国ゼミ大会のことを詳しく知りたいの？いいですよ。全国ゼミ大会というのは、正式名称は「日本学生経済ゼミナール大会」と言って、全国の経済学・経営学・商学を学ぶ学生が一堂に集まり、普段のゼミなどを通じた勉強の成果を披露しあう大会のことなんだ。この大会は今回の北海学園大学大会で 58 回目なんだけど、北海道で開催されるのは初めてなんだ。

**市田** そうなんですか。全国といっても、どこからどのぐらいの学生が参加したのですか？

**野比** 北は北海道から南は熊本までの約 1,500 人の学生が参加したんだ。地域的にみると、ほぼ全国の大学生が参加したということになるね。

**市田** そうですね。ところで、どうして北海学

## INTERVIEW 2 ——— 助言講師
### 水野谷 武志 ●経済学部地域経済学科教授

私自身がインゼミOBということもあり経ゼミ協に関わっています。これほどの大きな大会を今回実現できたのは、実行委員長の福嶋さんのリーダーシップをはじめ、携わった学生の皆さんの地道な活動の成果だと思います。学生の皆さんの熱意が、北海道で初めてのインター大会を成功裡に導いたのでしょう。

助言講師として関わった分科会での水野谷教授

大会のうち、昨年大会から新たな部門として始まり、今回で２回目となったプレゼン部門はレベルが高いものでした。表現力などの技術は、学生の旺盛な吸収力からすると、これからもさらに向上していくだろうと感じました。ただ、今後は関係する書物の読み込みや先行研究の調査など、丁寧な研究が必要にもなると思いました。

従来からの討論部門は、やはりこのインゼミの基盤をなすもので、「討論」「議論」の重要性を再認識するとともに、助言講師としても学ぶことが多く、とても興味深く参加できました。参加ゼミは事前の論文交換などをしていますが、分科会という空間で意見を交わしていく中で、日常的な環境の違い、テーマの違いを越えてどんどん議論が盛り上がっていきます。時には助言講師も議論に加わります。そのような研究の交流が討論部門で数多く生まれたのではないでしょうか。次回大会は関西で行われます。是非皆さんも参加してみませんか。

**参加大学（順不同）**

北海学園大学、札幌学院大学、旭川大学、東北学院大学、新潟大学、金沢大学、中央大学、法政大学、明治大学、城西大学、日本大学、立教大学、青山学院大学、関東学院大学、神奈川大学、静岡大学、三重大学、愛知淑徳大学、滋賀大学、関西大学、近畿大学、龍谷大学、京都学園大学、神戸国際大学、山口大学、愛媛大学、松山大学、福岡大学、九州国際大学、九州産業大学、佐賀大学、長崎大学、熊本学園大学、熊本県立大学

**分科会のテーマの一例**

日本とアジア諸国の関係性と展望、東日本大震災からの復興に対する研究、わが国の今後の社会保障制度について、少子化問題の現状と打開策、地域振興と観光発展、TPP、LCCについて、日本製造業の経営戦略、街おこし―地域の活性化―、アップルの経営戦略、スマートフォンが経済に与える影響、自動車産業の世界におけるマーケティング、新幹線と地方財政の発展、非正規雇用・ワーキングプア etc.

---

園大学で全国ゼミ大会を開催することになったんですか？

**野比**　経済学部ゼミナール協議会（以下ゼミ協）が、ぜひ、うちの大学で開催したいということで立候補したんだ。ゼミ協は市田君も知っているとおり、ゼミ間の親睦交流とゼミ活動の活発化を図るために、経済学部の学生が主体となって活動している団体だよね。６月のソフトボール大会や11月のプレゼン大会も企画・運営しているんだよ。

**市田**　へえ～。しかしそれだけの大会を開催するためには、準備が大変だったんではないですか？

**野比**　そのとおり！北海学園大学で開催することが決まったのが 2009年だけど、次の年には準備委員会を発足させたんだって。そして、まず前回大会（中央大学）の見学や運営補助などの経験をさせてもらって大会準備や運営などのノウハウを吸収したんだよ。2011年になってからは、実行委員会を発足させて本格的に準備してきたんだ。大会本番は12月17日と18日だったけど、それまでに何回か全国規模の準備会議を開催したり、２週間前からは夜遅くまで大学に残って準備にあたったりしていたよ。また、ゼミ協のスタッフだけではとても準備や運営の人手が足りそうにないということで、経営学部や法学部の学生にも声をかけて準備してきたんだ。

**市田**　準備委員会も含めると２年間の時間をかけて準備してきたんですね。大会の当日は、どういうテーマが取り扱われたのですか？

**野比**　経済学・経営学・商学に関する広範なテーマが取り上げられていたよ。例えば、就職、東日本大震災、地域活性化、TPP、社会保障など、大学生にとって身近な話題について、ゼミなどで学んだ経済学・経営学・商学の知識を用いた分析がされていたね。

**市田**　どのようにゼミなどで学習した成果を発表するのですか？

［次ページにつづく］

左から順に、プレゼン部門の審査員を務めた本学の奥田仁経済学部長、大平義隆経営学部教授、野口剛経済学部講師

1

関西大学商学部陶山ゼミの井上翔太さん（商学科3年生・写真左）は「前大会参加の先輩たちにつづき、2連覇できて嬉しいです。実行委員会の丁寧な対応と、大学が奇麗だったのが印象的でした」と喜びのコメント。

2

3

6

4

5

プレゼン部門で優勝した関西大学陶山ゼミCチーム

7

プレゼン部門決勝（写真1・6・7）、討論部門分科会（写真2～5）

北海学園大学・愛媛大学・日本大学の分科会の皆さんが昼食時に交流を深めている様子。
愛媛大学法文学部総合政策学科3年生の村井雅子さんは「初めての参加で準備不足もありましたが、他大学のゼミの人達と議論できたことが良かったです」と話していました。

運営スタッフとして寒いロビーで待機していた熊本学園大学ゼミナール推進協議会2年生杉中郁美さん（写真右）。「全国から学生が集まるということで取り組みの真剣度が強く勉強になります！」（写真左は本学ゼミ協1年生田野遥さん）

全日程終了後、実行委員会と運営スタッフ集合写真

次回、2012年第59回日本学生経済ゼミナール大会は、関西大学と龍谷大学で開催されます。

**野比**　発表方法には、討論とプレゼンテーションの2つがあるんだ。討論は、分科会（議論を行うグループのこと。1つの分科会は2つから4つのゼミで構成される）単位でそれぞれ決めたテーマに沿って、それぞれのゼミが論文を書き、それをもとに議論を戦わせていくというスタイルをとるんだよ。プレゼンテーションは、参加ゼミがそれぞれ決めたテーマについて勉強したことをまとめ、それをパワーポイントで聴衆に向けて報告するんだ。聴衆はその分野のことに詳しいとは限らないので、勉強した内容はもちろん、報告の分かりやすさも重要になってくるね。そしてプレゼンテーションでは、勉強した内容、報告の分かりやすさ、質疑応答の内容などを審査員が採点し、順位が付けられて、表彰が行われるんだ。

**市田**　討論やプレゼンテーションで培ったスキルは就職活動にも活用できそうですね。ちなみに来年はどこの大学で開催されるのですか？

**野比**　来年は、プレゼンテーション部門が関西大学で、討論部門が龍谷大学で開催されるよ。市田君の所属ゼミが参加するということもあるかもしれないね。

**市田**　2年生からゼミに参加して勉強するのが楽しみになってきました。僕も早く全国の大学生とゼミ交流してみたいな。

**野比**　そうだね。全国ゼミ大会で同じ分科会になったことなどをきっかけに、就職活動などの情報交換をするといったように交流が発展していくこともあるようだね。全国ゼミ大会への参加や大会の企画運営を通じて、全国の同年代の学生と交流を持つことは、大学生活での大きな財産になると思うよ。特に、大会実行委員の人たちは、準備が大変だっただけに、その分達成感も大きいだろうね。

全国ゼミ大会のパンフレット ▶

［OB訪問］

# 働きマン 8

# 「商業の教員になりたい」、心に夢を描いて

## 七戸 茂治さん
ななと　しげじ

陸上自衛隊真駒内駐屯地の宿舎にて

2012年3月、ひとりの教育者が高校を去る。高校生の頃から商業科教員を夢に見て実現。商業教育一筋に道を歩んできた七戸茂治さん。36年間の教員生活と、それを夢見て学んだ学生時代を振り返る。

◀産業教育功労者へ送られる表彰状を手に

### 漁師の家に生まれて

北海道奈井江商業高等学校の校長七戸茂治さんは、昭和26年、日高地方えりも町の漁師の家庭に13人兄妹の7男として生まれた。兄妹の中で唯一高校に進学させてもらうが、それでも家業の手伝いはしなくてはならなかった。既に中学生の頃から朝の４時、５時には起きて漁を手伝い、登校時間にぎりぎりで間に合うような毎朝だったという。

高校は隣町の様似高等学校（当時の商業科）に進学。漁師仕事でたくましくなった太い指のため、そろばんを滑らかに弾くことが出来ず苦労したが、簿記に興味を持ち、放課後も学校に残り勉強した。簿記の仕分けなどをして利益を見出していくことや、コストを下げて利益を上げていくという仕組みについて、高校生ながらも深く考えるようになった。「秋になると刺し網での鮭漁。不漁の時で1日1本、ひどい時には１週間に1、2本の水揚げの時もありました。そんな時は船の燃料を使うため全く採算が取れません。家業のそういうことが理屈でわかり、勉強という方向に向いていったのかもしれません」。家に帰っても暇さえあれば簿記の問題を解いた。港に船が入れば手伝わなければならなかったが、勉強に夢中になっていると、親に「大臣にでもなるのか」と叱られたそうだ。

### 夢に向かって大学進学決意

規模の小さい漁家では、経済的な余裕はない。高校卒業後は就職が当然で、地元の信用金庫などの就職口もあったが、商業の勉強の面白さに強く魅かれていた七戸さんは高校２年の時に進学を思い立つ。働きながら大学に進んだ高校の先輩のことを担任の先生から聞いたからだ。「大学で学べる！」。調べてみると、札幌の北海学園大学には様似高校を卒業した後、陸上自衛隊真駒内駐屯地に入隊し、夜間に大学で学んでいる先輩がいる。当時、多くの自衛官が幹部候補生などを目指し本学二部に通っていた。七戸さんは希望の灯りを見出し受験勉強、自衛隊入隊と段取りをすすめ、無事本学経済学部二部に入学をはたす。

その初期の希望をかなえた七戸さんに待ち受けていたのは、自衛隊入隊後に欠かせない教育訓練だった。ほぼ３ヶ月、その訓練のため、大学に通うことが出来なかった。幸いなことに、その後配属となった部隊の隊長の理解があり、後期からは大学に通えるようになった。通えるだけで嬉しくて実家から運んだ自転車をこいで、真駒内から大学までひたすら平岸街道を通ったという。何ごとも苦にならないほど希望に燃えていた。休講など時間があれば図書館に行き自学自習。簿記の村田ゼミを選んだところ、会計事務所に勤めていた仲間がいて、よく勉強を教えてもらった。

### 教員を目指して、そして36年間の教員生活

七戸さんの志は大学での勉強だけではなかった。夢は「商業の教員になりたい」ということ。高校で興味を持った簿記、それを今度は教える側として活かしたいと思っていた。当時二部生の教職志望者は、長期休業中に集中講義を受講できた。「勉強時間をどう捻出するか。商業科目は自信がありましたが、一般教養と教職教養の勉強が足りない。職務の休憩時間や昼休みには、いつも作業ズボンのポケットに入れたハンドブックを、とにかく開いては頭に叩き込んでいました。少しの時間でもそれを毎日積み重ねれば膨大な時間の積み上げになります。しかしそれでも足りないと感じ、駐屯地の近くに３畳二間の部屋を借り、土日はそこにこもって勉強に集中しました」。

やがて採用試験の日が訪れたが、教員志望者の数に対して商業科採用は少なく、受かるか不安だった。結果は念願かない合格したものの、採用されたのは社会科教員。どうしても商業科で教えたいという思いは変わらず採用を断る。そして猛勉強の末、再度受験を試み、念願の商業教員に採用となった。生来の気質、決断したら徹底してやり、それを実現させる実行力が結果をもたらした。

待望の教員人生は、留萌高校赴任からスタートを切った。その後、希望を出し様似高校に赴任。「母校に帰れたのは嬉しかったのですが、当時生徒の服装はボンタン、タンランばかりで学校が荒れていました。そこで検定などの資格取得をさせるために生徒たちを指導、通知表も家庭訪問で持っていくなど身体を張ってやりました。それが実り次第に落ち着いていきました」。管理職への道も断って来たが再三の勧めで昇任試験に臨む。一度決断したら中途半端は好きではない。合格に向けて徹底的に勉強し教頭になる。平成17年には校長となり、再度様似高校に赴任。「お帰りなさいと言われました。最高の（在任）３年でした」。教員生活36年中21年、半分以上を母校で過ごしたことになる。

七戸さんは教員を務める傍ら本学の同窓会活動にも熱心で、教職者で作る豊陽会の会長も務めた。「北海学園大学に愛着を感じています。息子も経営学部を出ました。教職課程の研修会参加、教職指導室との連携など後輩の応援をしています」。「自分が頑張ればまわりが応援してくれた」その経験を、今度は立場を変えて後輩たちに向けてくれている。

profile
1951年　えりも町生まれ
1970年　北海道様似高等学校卒業、陸上自衛隊入隊
　　本学経済学部二部経営学科入学
1974年　本学部卒業
1976年　陸上自衛隊退職、北海道留萌高等学校定時制教員赴任
　　その後、様似、苫前、函館、旭川等の商業高校に赴任
2012年　3月、北海道奈井江商業高等学校校長を定年退職予定

［平成23年11月26日］

## 第３回基礎ゼミプレゼン大会が開催される

2011年11月26日に経済学部ゼミナール協議会主催で第３回プレゼン大会が開催されました。今回は１年生の基礎ゼミが対象で、全23チーム（1ゼミで複数チームの参加も可能）が参加しました。各チームは自ら選んだ研究テーマについて、準備した成果をパワーポイントを使い発表し、教員による審査によって、会場ごと（７号館D31、D41、D42の各教室）に優勝・準優勝が選ばれました。

コンビニやケータイ、大学生の食生活や就職問題、札幌地下歩行空間のような我々にとって身近なテーマから、予防医療や新薬承認の遅れなど医療問題、円高による産業空洞化、少子高齢化問題、独裁国家での民主化問題などこの先の日本・世界について考えさせられるテーマまで幅広く、ユニークな題材が多かったのが印象的でした。

結果は、D31会場では板垣ゼミ・金魚ヘルパーズ、D41会場では歌代ゼミ・吉江組、D42会場では越後ゼミ・ヤングマウンテンが、それぞれ優勝の栄冠を勝ち取りました。特に金魚ヘルパーズの発表は、金魚すくいという一見唐突にみえるテーマを取り上げていますが、東日本大震災にともなうイベント自粛による養殖農家への影響を、実際の取材も含め丹念に明らかにしており、プレゼンの展開方法も含め興味深いものでした。

基礎ゼミナールで学んだ調査の方法やプレゼン技術を、ぜひ今後の専門ゼミでも生かしていって欲しいと思います。

［平成23年12月1日・12月22日］ 労働経済論

## 労働経済論でシンポジウムがおこなわれる

経済学部では、不定期にさまざまなテーマでシンポジウム（以下シンポ）や公開講座が開催されています。今回は、12月に川村雅則准教授の授業（労働経済論）を使って開催された２つのシンポを紹介します。両シンポともに、学生たちがゼミで行った調査結果が報告されたほか、調査の協力団体である札幌地域労組関係者が講師に招かれて実施されました。

### 〈シンポ❶〉『なくそう！官製ワーキングプア ― 民間委託・清掃事業と指定管理者の現場から考える』

家庭ごみの収集事業というのは、私たちの暮らしになくてはならない仕事です。もしこの仕事がストップしたら世の中はごみであふれかえってしまいます。でも市民にそのことが意識されることは多くありません。しかも市の仕事ですが、働いているのは、民間の清掃会社に雇用される労働者が多数であり、さらにそこでの雇用は非正規雇用が多くを占めるのが実態です。当然というべきか、賃金も低い水準です。背景には、清掃会社が市から受け取る委託料の水準が低いこと、自治体財政の悪化という事情もあり、年々委託料が引き下げられてきたことなどがあります。税金の節約を考えるならば、たしかに、経費は極力抑えることが望ましいかもしれません（最小の経費で最大の効果）。でも、そのことが結果として、働く人々の雇用や賃金・労働条件を軽視することになっていないでしょうか。本シンポでは、公共サービスのあり方が鋭く問われることとなりました。

●調査の結果 ► http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index に掲載

### 〈シンポ❷〉『若者よ、剣を取って生き抜け！― いまなぜ団結「剣」・労働組合か』

アルバイトは学生生活にとって欠かせないものになっているようです。適度なアルバイトはほどよいスパイスとなり学生生活を充実したものにするでしょう。ですが実際には、不払い労働、割増賃金の未払い、勤務シフトの一方的な変更や強制的な組み入れ、仕事のミスやレジの清算不足の弁償強要など、アルバイト上のトラブルは少なくありません。キャリア教育が強調される一方で、ワークルールが学校教育で教えられる機会がなく、学生自身に知識が欠如していることもトラブルの背景にあります。また、仮に知識があったとしても、ワークルールの遵守を求める・職場を改善していく、というのは、いくら労使対等原則が法律の文面に掲げられていても、実際には容易なことではありません。

そこで、札幌地域労組が日常受けている労働相談や労働者支援・組合づくりの実践を聞きながら、いざというときの身の守り方や職場の改善策を学ぶと同時に、私たちは仕事とどう向き合っていけばよいのか考えました。学生たちの真剣な顔つきをみて、こうした講話は、将来何十年にもわたって働き続ける上で重要なキャリア教育の一部であることをあらためて実感しました。

●札幌地域労組 ► http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/ を参考

# 研究室の窓から

## マドレーヌ菓子と無意識的記憶

**松原 陽子** 経済学部経済学科准教授
まつばら ようこ
［専門はフランス語、フランス文学］

マルセル・プルースト『失われた時を求めて 12』►
（鈴木道彦訳、集英社文庫）

### フランス文学の主題

「フランス文学が中心的主題としてきたものは何でしょうか?」と教室で尋ねると、「恋愛」という返事が返ってくることが少なくありません。確かに、「恋愛」は昔からフランスの詩や小説において重要な題材の一つとなってきました。フランスの詩や小説作品を読もうとする人の多くが恋愛ものを期待しているほどです。ところが、実際にフランス文学がこれまで「恋愛」よりも頻繁に主題に据えてきたのは、「時間」なのです。

### 「時間」が主役となった小説

そこで、「時間」という主題がフランス文学においてどのように扱われているか見てみましょう。ここではフランスの作家マルセル・プルースト（1871–1922）の小説をとりあげます。プルーストは20世紀小説の礎をつくった作家として知られており、日本の近代文学にも強い影響を与えてきました。

プルーストの畢生の小説『失われた時を求めて』はタイトルが示している通り、「失われた時」すなわち過去の記憶を探し求める話です。小説は「長い時にわたって、私は早くから寝たものだ」（マルセル・プルースト、『失われた時を求めて』第一巻、プレイヤッド版、3頁）という一文で始まり、「時の中に」（『失われた時を求めて』第四巻、プレイヤッド版、625頁）という表現で終わります。

いや正確に言えば、物語はそこで終わらずに、「時」という言葉を蝶番として冒頭の一文に戻り、再びそこから始まるのです。この小説は「時」をめぐって展開していき、その主役は「時間」そのものであると言われているほどです。

プルーストは「時」をどのように描いたのでしょうか。また「失われた時」が見出される瞬間とは、どのような時なのでしょうか。

### 内面化された時間

プルースト以前の19世紀の作品において時間は客観的に区分けされた時計の時間としてとらえられていました。プルーストが描いた時間はそれとは大きく異なるものです。プルーストは時間を各個人がその時々に持つ主観的、内面的な時間としてとらえたのです。たとえば、同じ一時間でも楽しい時には短く感じ、苦しい時には長く感じるといった経験はだれにでもあるでしょう。

それはプルーストと同時代を生きた哲学者ベルクソンが指摘している時間感覚であり、20世紀の小説家が描き始める内面化された時間です。そして、「失われた時」がよみがえる瞬間は、日常的な時計の時間を大きく逸した特権的瞬間なのです。それは果たしてどのような瞬間なのでしょうか。

### 「マドレーヌの挿話」と無意識的記憶

プルーストを読んだことがない人でも、マドレーヌと紅茶の挿話については、耳にしたことがあるでしょう。『失われた時を求めて』では、主人公「私」が紅茶にひたしたお菓子マドレーヌをなにげなく口にした瞬間、強い幸福感に包まれる場面があります。その場面を一緒に読んでみましょう。

①「母はプチット・マドレーヌと呼ばれるずんぐりしたお菓子、まるでホタテ貝の筋がはいった貝殻で型をとったように見えるお菓子を一つ、持ってこさせた。少したって、もの悲しく過ごしたその一日と、明日もまた、もの悲しい一日であろうという予想とに気を滅入らせながら、私は無意識にお茶にひたしてやわらかくなったひと切れのマドレーヌごと、ひとさじの紅茶をすくって口に持っていった。ところが、お菓子のかけらの混じったそのひと口のお茶が口に触れたとたんに、私は自分の内部で異常なことが進行しつつあるのに気づいて、びくっとしたのである。すばらしい喜び、孤立した、原因不明の甘美な感覚が、私の内にはいりこんでいた」（『失われた時を求めて』第一巻、プレイヤッド版、44頁）

この後、「私」が幼年時代を過ごしたコンブレーの光景すべてが一杯のお茶から飛び出してきます。続きを追っていきましょう。

②「そのとき一気に、思い出があらわれた。[・・・]そして、ちょうど日本人の玩具で、水を満たした瀬戸物の茶碗に小さな紙きれをひたすと、それまで区別のつかなかったその紙が、ちょっと水につけられただけでたちまち伸び広がり、ねじれ、色がつき、それぞれ形が異なって、はっきり花や家や人間だと分かるものになっていくものがあるように、今や家の庭にあるすべての花、スワン氏の庭園の花、ヴィヴォンヌ川の睡蓮、善良な村人たちとそのささやかな住まい、教会、全コンブレーとその周辺、これらすべてががっしりと形をなし、町も庭も、私の一杯のお茶から飛び出してきたのだ」（『失われた時を求めて』第一巻、プレイヤッド版、46頁−47頁）

ここでよみがえる記憶こそが「無意識的記憶」です。「無意識的記憶」とは、とるにたりないことやちょっとした感覚によって、思いがけないときに不意によみがえる記憶のことで、プルーストの作品において大変重要な役割を果たします。この『マドレーヌの挿話』で見られるように、記憶を引き起こす強い作用を持っているのは、味や匂いの感覚です。過去の記憶を小説の中心的主題にすることは珍しいことではありません。しかし、「無意識的記憶」はプルーストの独創で、しかもそれを作品全体の基盤としたのは初めてのことでした。

この『マドレーヌの挿話』でのように、私たちのだれもがいつか予期せぬ時に、特権的瞬間に出会えるかもしれません。皆さんはすでにこのような体験をしたことがあるでしょうか。もしなければ、皆さんにとってのマドレーヌ、すなわち懐かしい思い出を取り戻すきっかけとなるものは何になるでしょうか。

Paris　photo：Sasaki Ikuo

econ.News 2

## 2011 年度地域研修報告会開催

毎年恒例となっている地域研修の報告会が、12 月 3 日に開催されました。地域研修とは、地域が抱える課題を現地調査し、解決法や改善策を考えることで、社会に貢献することを目指した体験型の授業です。今年度も 21 のゼミナール（ゼミ）が、それぞれテーマを決め、北海道内の各地を中心に研修を行いました。中には、高知や沖縄まで出かけて研修を行ったゼミもあります。

報告会では、4 つの教室に分かれ、それぞれ 15 分の持ち時間を使って、研修の結果を順番に発表しました。それぞれのゼミは、プレゼンテーション用ソフトを使いながら、まず、研修のテーマや目的を説明。次に、地元の人へのアンケートや聞き取り調査の結果、現地の見学の印象、体験したことなど、研修の成果を報告しました。最後に、研修に関する今後の課題と、自分たちの意見や考えが説明されました。今年度は、TPP（環太平洋パートナーシップ）協定に関係した調査など、学生の関心が高いテーマも多く、報告を聞いた他のゼミの学生から、研修内容やそれに関するゼミの意見について、多くの質問がされていたのが印象的でした。報告会の司会の一人である水野谷教授からも、「今年は昨年よりも積極的に質問が行われ、質疑応答の時間が足らないくらいでした。」との感想がありました。また、「高知や沖縄の研修の話は、興味深く聞かせてもらいました。（遠方まで調査研究に出かける姿勢は、）学生の鑑ですね。」（水野谷教授）とのコメントも頂きました。ゼミによっては、現地の人から聞いて心に残った言葉を紹介するなど、研修を通じて様々な人と出会うことで、人間としての成長もあったようでした。

［平成 23 年 10 月 29 日］市民公開講座

## 世界の言語と文化のモザイクを眺める ― 韓国・朝鮮文化

世界のさまざまな地域の言語や文化について学ぶ市民公開講座で、本学部の辻弘範准教授が韓国・朝鮮文化についての講演をおこないました。

講演の前半では、日本社会における韓国・北朝鮮イメージの歴史をみた後、最近刊行された女性雑誌の韓国特集記事を題材としながら、近年さかんな「韓流」ブームでは、中高年女性にとって魅力的なものだけで韓国のイメージが構成されており、それ以外についてはいっさい隠されている現状が説明されました。その上で、現在の韓国・朝鮮社会をみるためのキーワードは「課題としての儒教」であるとして、李氏朝鮮王朝が儒教の「忠」「孝」イデオロギーを社会統合の道具として利用する一方で、朝鮮社会の人々もそれを利用しながら立身出世や政治闘争を続けていった歴史をみてゆきました。そして、現代の韓国社会で見られる「美容成形（※韓国では『整形』ではなく『成形』が一般的）」を肯定する風潮や、過剰な受験競争といった社会現象の根底には、今でも「孝」イデオロギーが息づいていることが指摘されました。

講演の後半では、韓国・朝鮮語で使用されているハングルについての話がありました。ハングルは、1443 年に李氏朝鮮王朝第 4 代のセジョン王によって作成が命じられ、3 年をかけて完成したものですが、現在でもほぼ当時の姿を残しています。まず、ハングルの子音 19 個と母音 21 個の形と発音を学んだ後、それらを組み合わせて文字を作る方法や、日本語のように「てにをは」を使って文章を作る方法などを学びました。最後に「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」などの簡単なあいさつ言葉を学んで、講演は終わりました。「近くて遠い国」と呼ばれてきた朝鮮半島を眺めるにはどのような視点が必要なのか、考えさせられる講演でした。

辻弘範准教授

本城誠二 教務センター長の挨拶

econ. No.25　2012. 冬・春号
発行：北海学園大学経済学部
制作：株式会社 ラボット
〒062-8605札幌市豊平区旭町4丁目1-40　TEL. 011-841-1161（代表）FAX. 011-824-7729
http://www.econ-hgu.jp　北海学園大学エコン 検索　E-mail：kyomu-za@econ.hokkai-s-u.ac.jp
R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用